



市民病院

ハナちゃん通信

なんで眼科に行くと視力を測るの？

問 市民病院管理課 ☎48-5050

皆さんこんにちは、市民病院の眼科です。眼科を受診すると、まず最初に視力を測定したり眼圧を測定したりします。誰もが人生のうちで視力を何度かは測ったことがあると思います。でも、なんで眼科に行くと視力を測るのでしょうか。なんとなく見にくいからでしょうか。眼鏡を作るからでしょうか。

人間の眼は、物を見る時に外からの光や景色が眼に入り、網膜と言うフィルムに映し出されその情報が脳へと伝達されて、それを物だと認識します。その眼の能力を一定の環境下で測定して数字に表したものが視力です。眼科を受診される患者の症状で、「見にくい」「視力が落ちた」など見え方の不調を訴える人が一番多い気がします。その人たちの見にくいを数値化し、患者にも治療する側にも分かりやすくするための検査が視力検査です。毎回測ることで、その時の「見にくい」や「見やすくなった」を知ることができ、その変化を追うことで病気の変化も知ることができます。

視力には、裸眼視力と矯正視力があり、裸眼視力は眼鏡や矯正レンズ無しで測った素の視力で、矯正視力はその人に合った矯正レンズを入れて測る視力です。近視、遠視、乱視などの屈折異常がある人は必然的に裸眼視力が悪くなり、屈折異常をレンズで矯正して眼の能力の最大値を引き出したものが矯正視力となり、診察や治療にはこの矯正視力の方が重要視されます。強い近視の人だと裸眼視力は目の前の0.01しか見えないけど、眼鏡やコンタクトレンズを使うと1.2まで見える人なども珍しくはありません。眼科の診療で重要なのはレンズ無しの裸眼視力ではなくて、レンズを入れてどれだけ最大見えるかの矯正視力が重要となってきます。

眼科では、その人に合ったレンズを入れても1.0が見えなかった時になんらかの病気が隠れているのではと考え診察をします。視力を測ることは、その時の眼の状態を正確に把握するための最初の一步であり、必要で重要な検査だといえます。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課 ☎48-6602

No.94 空中写真散歩(12) ～大浜～

大浜の街並みが所狭しと密集しています。大浜は中世、問丸と呼ばれる物資の運送・保管・販売に従事する人が確認できるほど、古くからの湊町です。江戸時代後期には沼津藩の大浜陣屋が置かれていましたが、その建物を上回る規模の西方寺や海徳寺の本堂が建てられ、それらが今「大浜てらまち」と呼ばれる景観を生み出しています。

明治時代に定められた県道・大浜街道は、大浜港に程近い湊橋が終点です。また大正3年(1914)に開業した現在の名鉄三河線は、はじめ大浜港駅(現名鉄碧南駅)から刈谷までを結びました。このように、大浜は港を通じて、道路や鉄道の起点となる街でした。

写真からは、醸造業の蔵や木綿工場、鑄造工場が林立し、産業の盛んな様子もうかがえます。



△米軍1948年撮影/国土地理院提供